

日本国概况

姜春枝 编著

北京大学出版社
北 京

图书在版编目(CIP)数据

日本国概况/姜春枝编著. —北京:北京大学出版社, 2001. 10
ISBN 7-301-05264-2

I. 日… II. 姜… III. 日本—概况—日文 IV. K931.3

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2001)第 072309 号

书 名: 日本国概况

著作责任者: 姜春枝 著

责任编辑: 许耀明

标准书号: ISBN 7-301-05264-2/K·0305

出版者: 北京大学出版社

地 址: 北京市海淀区中关村北京大学校内 100871

网 址: <http://cbs.pku.edu.cn/cbs.htm>

电 话: 出版部 62752015 发行部 62754140 编辑部 62753334

电子信箱: zpup@pup.pku.edu.cn

印 刷 者: 世界知识印刷厂

发 行 者: 北京大学出版社

经 销 者: 新华书店

850×1168 32 开本 10 印张 250 千字

2001 年 10 月第 1 版 2001 年 10 月第 1 次印刷

定 价: 15.00 元

前 言

21 世纪是跨文化交流的时代。作为日语学习者,为了提高语言运用能力需要学习日本概况;为了提高交流能力也需要学习日本概况。基于这种认识,我们编写了这本《日本国概况》。本书可作为高等教育自学考试日语专业及普通高等学校日语专业教材,亦可作为其它日语学习者学习日本概况之用。

考虑到学习者的需要及实际条件,本书在编写过程中注意了以下几个方面:

1. 涵盖面广。本书内容涵盖了地理、历史、政治、经济、教育、科技、文学、艺术、体育、宗教和生活习惯等几乎所有领域,为学习者提供一部全方位了解日本的向导书。

2. 重点突出,叙述简明。为方便学习者掌握,我们在章节设计中力求重点突出,在叙述中力求简单明了的原则,以使学习者在有限的时间内较快地了解、把握日本的各方面概况。

3. 给足单词,扫除障碍。日本概况涉及各种领域,难读的词很多,考虑到学习者的实际情况,我们尽可能多地对单词加标读音,尽量减少学习者查单词之苦。

4. 多出练习,明确重点。为方便学习者掌握本书的重点,我们以多出练习题的方式进行再确认,争取做到只要完整地回答出每部分后的练习题就可以掌握本书的基本内容。

本书在编写过程中,参考了国内外有关资料,吸收和借鉴了有

关研究成果,得到了北京大学出版社许耀明先生的指导,在此一并表示感谢。

由于编者水平有限,加之时间仓促,书中难免有不当之处,诚望得到各方面的批评、指正。

编 者

2001年8月

目 次

一、日本の地理	1
1. 位置	1
2. 国土	1
3. 人口	1
4. 地形	2
5. 気候	3
6. 山・川・湖	3
7. 植物	4
8. 動物	5
9. 交通	5
10. 行政区画	7
練習問題	10
二、日本の歴史	13
1. 日本人の祖先	13
2. 日本国の起源	13
3. 原始・古代	14
4. 中世	16
5. 近世	17
6. 近代	18
7. 第二次世界大戦中の日本	19
8. 現代	24
練習問題	26
三、日本の政治	32

1. 天皇	32
2. 憲法	32
3. 統治機構	33
4. 選挙	34
5. 自衛隊	35
6. 国旗	36
7. 国歌	36
8. 国花・国鳥	37
9. 元号	37
練習問題	38
四、日本の経済	39
1. 戦後の復興期	39
2. 高度成長期	40
3. 安定成長期	41
4. “バブル”の生成と崩壊	42
5. 90年代の長期景気低迷	42
6. 日本経済成長の要因	44
7. 貿易	45
8. 産業構造	48
9. 農業	49
10. 水産業	52
11. 工業	53
12. 商業	57
13. 中小企業	58
14. 工業の特徴	59
15. 工業地帯	60
練習問題	62
五、日本の企業経営	65

1. 企業經營の特徴	65
2. 意思決定の仕組み	65
3. 雇用関係の特徴	67
4. 年功序列	68
5. 定期採用方式	69
6. 労使関係	72
7. 勤務時間・賃金	73
8. 定年・社会保障	75
練習問題	79
六、日本の文化	81
1. 日本語	81
2. 建築	82
3. 庭園	84
4. 音楽	85
5. 伝統音楽	87
6. 能	88
7. 歌舞伎	89
8. 文楽・日本舞踊	91
9. 大衆芸能	92
10. 生け花(華道)	94
11. 茶の湯(茶道)	95
12. 書道	96
13. 絵画	98
14. 浮世絵	99
15. 陶磁器	100
16. 漆器	102
17. 人形	103
18. 古代文学	105

19. 王朝文学	106
20. 武家文学	108
21. 町人文学	109
22. 近代文学	110
23. 現代文学	112
24. 戦後文学	113
25. 和歌	115
26. 俳句	116
27. 日本のコミック	117
28. 仏教	119
29. 禅	120
30. 神道	122
31. キリスト教	123
32. 神話	124
33. 昔話	126
34. 伝説	127
練習問題	128
七、日本の教育・科学技術・スポーツ・マスコミ	132
1. 学校教育制度	132
2. 教育制度の発展	133
3. 進学	134
4. 学生生活	135
5. 大学	136
6. 科学技術の役割と目標	137
7. 科学技術開発の現状と動向	138
8. 日本の科学技術の特質	142
9. 相撲	145
10. 柔道	146

11. ゴルフ	147
12. 剣道・弓道・空手道・合気道	148
13. 野球	149
14. サッカー	151
15. オリンピック	151
16. 新聞	152
17. テレビ・ラジオ	153
18. 出版	154
練習問題	155
八、日本人とその生活	159
1. 集団主義	159
2. 義理人情	160
3. 高齢化社会	162
4. 日本人の一年	163
5. 日本人の一生	164
6. 日本人の言語行動	166
7. 日本人のジェスチャー	167
8. 日本人の好きな英雄	169
9. 日本人の微笑	170
10. 結婚	171
11. 家族構成	172
12. 単身赴任	174
13. 住居	174
14. 食生活	177
15. 日本料理	177
16. 酒	179
17. 着物	179
18. 死の儀式	180

19. 主な年中行事	182
20. 国民の祝日	184
21. 贈答	185
22. 自然景観	187
23. 名所古跡	187
24. 日本にある世界遺産	189
25. 碁・将棋・マージャン	190
26. 公営ギャンブル	191
27. パチンコ	193
練習問題	194
模擬テスト問題	197
模擬テスト答案	204
語彙表	206
附録	284
1. 中央省庁再編	284
2. 年表	285
3. 祝日・行事	290
4. 日本人男女・年齢別人口	295
5. 日本主要都市人口	296
6. 世界主要国面積	297
7. 日本と中国の友好都市及び県省の締結状況	298
参考文献	307

一、日本の地理

1. 位置

日本はアジア大陸の東端に位置する島国である。3000以上の島のうち、主なものは北海道、本州、四国、九州の4つ。海を隔てて北はサハリン・シベリア、西は朝鮮半島・中国と隣接している。この位置は、大陸の政治的変動に巻き込まれることなく、大陸の文化を取り入れられる有利さを持っているため、日本は建国以来、固有の文化を残しながら、外来文化を摂取し、独自の融合文化を築いてくることができた。

2. 国土

全国土の4分の3が森林に覆われた山地である。山は高くなく、本州中央部に標高3000m級の、日本アルプスと呼ばれる山脈がそびえているほかは、2000mを超すのはわずかである。火山は著しく多く、主要なものだけで150を数える。大きな平野がないので、河川は短く急流を成している。日本列島は地殻変動帯に属しているため地震が多い。；

面積は約38万km²。イギリスの1倍半、アメリカのカリフォルニア州とほぼ同じである。

3. 人口

日本の総人口は1億2,628万人(1998年)であり、これは、中国(12億5,570万人、98年)、インド(9億8,222万人、98年)、アメ

リカ(2億7,403万人、98年)、インドネシア(2億634万人、98年)、ブラジル(1億6,585万人、98年)、パキスタン(1億4,817万人、98年)、ロシア(1億4,743万人、98年)に次いで世界第8位である。

人口の分布は、温暖で交通・産業の発達した太平洋側の海岸沿いの平野に多く、本州の南関東から北九州にかけて人口の70%が集まっている。また、工業の発展にともなって人口が都市に集中し、農村では著しく減少した。

東京都(区部)の783万人(97年、郊外を含むと1,158万人)を筆頭に、人口100万人以上が11都市ある。東京は郊外も含むと、ニューヨーク1,980万人、ロサンゼルス1,530万人、メキシコシティ1,505万人、ムンバイ(ボンベイ)1,260万人に次いで、世界で5番目に人口の多い都市である。

4. 地形

日本列島は太平洋や日本海などの海に囲まれ、大陸とは浅い大陸棚で接している。太平洋側には非常に深い日本海溝や伊豆小笠原海溝がある。

日本にはいくつもの火山脈が走っているため、地形は変化に富む。川は短く急流で、山あいでは深い峡谷をなし、海岸線は複雑に入りくんでいる。風光明媚なところが多く、温泉地も点在している。

日本列島は環太平洋地震帯の上であり、火山活動も活発で世界でも有数の地震多発地帯となっている(1923年の関東大震災(マグニチュード7.9)は、東京を含む広い範囲にわたって大規模な損害を与え、1995年の阪神・淡路大震災(マグニチュード7.2)は神戸および淡路島をはじめとする阪神地域に大きな被害をもたらした、二大地震であった)。

5. 気候

中緯度に位置して気候は温暖。中央部の東京の年平均気温は15.3℃である。列島の北端から南端まで3000kmあるので温度差があり、年平均気温は6～22℃。雨は多く、年間降水量は1600～1700mmに達する。早春から夏の植物生育期、特に6月から7月の梅雨期にはよく雨が降る。夏と秋に年数回は襲来する台風も多量の雨をもたらす。

日本列島は規則正しく季節風の支配を受け、冬は寒帯気団が南下し、夏は熱帯気団が北上する。両気団に覆われる冬と夏は各数か月と長く、季節風交替の谷間にあたる春と秋は各2か月程度である。

冬は、北西季節風が吹いて雪が降り続く日本海側と、晴天が多く乾燥した太平洋側と対照的な天候分布になる。本州南部の夏は暑く、東南アジア並みかそれ以上で、典型的な照葉樹林帯の気候である。夏の3～4か月間、東南アジアなどと同じ気候ということは、日本の農耕文化の基層となったイモ・イネをはじめ、南方系の生物が熱帯気団とともに北上した可能性があるということであり、この点が日本文化の基本的性格を南方型とする有力な根拠になっている。

6. 山・川・湖

日本の約70%は山地であるが、とくに本州の中央部には飛騨・木曾・赤石の三つの山脈があって、3,000m(9,840フィート)以上の山々がそびえている。これらはそれぞれ北・中央・南アルプスとも呼ばれ、また、総称して日本アルプスといわれる。これは1896年に、イギリス人ウェストンによって名付けられたものである。

富士山は、標高 3,776m(12,388フィート)の日本最高の山で、典型的な円錐形活火山(1707年に大噴火があったが、それ以後過去約3世紀噴火活動はない)で、美しく広い裾野を持つ。冬には中腹まで雪におおわれ、一層美しさを増す。

現在、日本には浅間山・阿蘇山・桜島・雲仙岳・三原山など約60の活火山がある。

川は短くて急流が多く、最も長い信濃川でも367km(228マイル)である。落差の大きい急流は水力発電に適し、美しい峡谷をつくっているが、交通にはほとんど利用できず、洪水を起こす危険もある。

湖は山間にあり、水が澄んでいて眺めのよいものが多い。ただし、規模は小さく、最も大きい琵琶湖が674km²(260平方マイル)である。また、最も深い湖は田沢湖で、水深423m(1,388フィート)である。このほか、砂丘・砂州などによって外海と分離してできた潟として、霞ヶ浦168km²(65平方マイル)がある。

7. 植物

日本の気候の地域差は顕著である、植物の生態は複雑で多極化している。日本にある約4,500種の植物のうち、約1,000種は日本固有種である。

北海道を含む日本北部には、トドマツなどの針葉樹など、シベリア地域と似かよった植物が見られる。

日本中央部から九州へかけての平地には、クリなどの温帯落葉樹が多い。

東北地方から中部山岳地帯ではブナ・カエデなどが広がる。これらの林は5月から6月には美しい新緑におおわれ、秋には山々は色とりどりの紅葉に彩られる。

サクラは日本人にはことのほか愛され、日本全土で植林され

ている。毎春、サクラの季節は沖縄から始まり、北上する。サクラは一週間で散ってしまうが、「サクラ前線」を追って旅行すれば、約3カ月間サクラの花を楽しむことができる。

春は、さまざまな食べられる野草(山菜)が摘める季節である。秋は、山林にキノコ狩りに出かけるシーズンになる。そのなかで、マツタケはその香りから第一とされている。

8. 動物

日本は植物相が極めて複雑であるので、動物相も寒帯性動物から熱帯性動物まで極めて多様に発達している。

北海道には、ヒグマなどシベリアの動物と同種のものがある。

本州には中国大陸・朝鮮半島と共通した動物がたくさんいる。典型的なものはキツネ・タヌキである。また、本州にはシカ・キジなどの固有種がある。このほかには、高山地帯の鳥で四季に応じて羽根の色を変えるライチョウがいる。かつて本州に生息していたニホンオオカミは今は絶滅している。

日本には北海道を除くどの地方にも、サル(ニホンザル)が1種だけ生息している。サルは本来熱帯性の動物で、寒帯には野生していない。たとえば、北アメリカ・ヨーロッパにはサルは生息していない。例外はニホンザルで、青森県(北緯40度)にも生息しており、これはサルの北限になっている。雪の中ではねまわるサルが見られるのは日本だけである。

沖縄や南西諸島には、イリオモテヤマネコ・ハブなどの熱帯性動物も多い。

9. 交通

旅客輸送手段で輸送量(人・km)が最も多いのは自動車で、次が鉄道である。航空機・船舶の比率は少ない。1996年度には、

自動車 66.1%、鉄道 28.6%、航空機 4.9%、旅客船 0.4%となっている。1970 年ごろまでは鉄道が一番多かった。

貨物輸送量(トン・km)では、自動車が最も多く、次は船舶である。鉄道輸送の比率はかなり少ない。1996 年度には、自動車 53.2%、船舶 42.2%、鉄道 4.4%、航空機 0.2%となっている。

●鉄道

鉄道の全長は2万300km(1万2,600マイル)であるが、そのうち80%近くが、国鉄の民営化により1987年に設立されたJR7社の路線で占められている。

日本の鉄道は英国人技師の指導により、1872年に東京の新橋と横浜の間に開通したのが、最初である。

日本の鉄道の花形は新幹線で、東海道・山陽新幹線は東京・福岡間1,176km(731マイル)を約5時間で走る。現在、このほか東北・山形・秋田新幹線、上越・長野新幹線が開通している。新幹線の最高時速は300km(180マイル)である。

1988年、本州と北海道の間に青函トンネル(全長53.85kmで世界一長い)、本州と四国の間に瀬戸大橋(1.1km)が相次いで開通し、本州と九州の間の関門トンネルを加えて、日本の主要な4島が鉄道で直接結ばれた。

東京・大阪などの大都市では、都市と郊外を結ぶ通勤用鉄道や地下鉄網も整備されている。

●道路と自動車輸送

日本の主要道路である国道および都道府県道の全長は、約18万km(11万2,000マイル)で、うち96%が舗装されている。高速自動車道も逐次整備されてきた。しかし、市町村道の舗装率は70.2%で、整備が立ち遅れている(1996年)。

自動車輸送は年々増加し、全国の自動車の登録台数は6,850万台(1997年、乗用車69%、トラック30%、バス1%)である。こ

れは人口あたりにすればアメリカ・オーストラリア・カナダなどの方が多いが、面積あたりでは世界で最も多く、そのため交通事故や排気ガス・騒音などが悩みのたねになっている。

●海運

日本は工業やエネルギー用資源・原料に乏しい。そればかりか近年の工業化にともない、農業人口が減少し、食料まで外国に依存する割合が大きくなってきた。そこで必要な外貨を稼ぐため、輸入した原料を加工し、製品を再び輸出しなければならない。この輸入・輸出を支えるのが海運業である。

10. 行政区画

日本の国土は、北から北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州、沖縄の九つの地方に分けられる。これらの地方区分は地形などの自然的特性と地域の産業や歴史の変遷を基礎にして分けられたもので、行政上の地方区分ではない。

行政上では、日本は1都(東京都)、1道(北海道)、2府(大阪府、京都府)、43県に分けられている。東北地方と関東地方には県が十二あり、中部地方には九つの県があり、近畿地方と中国地方には県が十、四国地方には県が四つ、九州地方には県が七つある。沖縄地方は沖縄県一つである。日本の都、道、府、県にはそれぞれ都庁、道庁、府庁、県庁が設けられ、その下に市、町、村、などの順序で行政機構が設けられている。

日本の47の行政区域の中で、面積が一番広いのは北海道で、東京都の37倍もあり、一番狭いのは大阪府で、北海道の45分の1しかない。